

【短報】四国におけるニセコウベツブゲンゴロウの初記録

ニセコウベツブゲンゴロウ *Laccophilus yoshitomi* Watanabe et Kamite (以下ニセコウベと記す) は、ツブゲンゴロウ属 *kobensis* 種群に属する小型のゲンゴロウである (Watanabe & Kamite, 2018). 本種は 2018 年に記載され、本州 (秋田, 山形, 宮城, 長野, 石川, 福井), 九州 (福岡) に分布することが知られている (Watanabe & Kamite, 2018; 内田・渡部, 2019; 渡部・保科, 2019). ニセコウベはコウベツブゲンゴロウ *L. kobensis* Sharp (以下コウベと記す) に類似しているため両種が混同されてきた可能性があり、実際に長野県や福井県では、コウベとして報告されてきた一部の産地の個体がニセコウベであることが判明している (内田・渡部, 2019; 渡部・保科, 2019).

筆者らは香川県においてコウベとして記録された標本を再検討した。その結果、それらは全てニセコウベであることが判明したため、四国初記録として報告する。県名は全て香川県であるため省略した。

2♂♂ 2♀♀, 坂出市神谷町奥 (五色台), 25.V. 2002, 出嶋利明採集 (出嶋, 2004, 2007); 1♀, 綾歌郡綾川町粉所東・庄坂, 29.VII. 2006, 北川雄士採集 (図 1)。

香川県におけるコウベの記録は出嶋 (2004, 2007) および藤本ほか (2009) が知られているが、これら全ての記録がニセコウベであった。したがって、本記録をもって香川県におけるコウベの記録を抹消する。

コウベは環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 (2018) において準絶滅危惧に選定されている希少種である。香川県におけるコウベの記録はなくなったものの、愛媛県や近畿地方からコウベが確認されていることを鑑みると香川県にも分布している可能性があるため、引き続き調査を行っていく必要がある。



図 1. 香川県産ニセコウベツブゲンゴロウ。

引用文献

- 出嶋利明, 2004. 香川県未記録種のコウベツブゲンゴロウを採集. へりぐろ, (25): 48.
 出嶋利明, 2007. 香川県の水生食肉甲虫類. 香川生物, (34): 83-96.
 藤本博文・三木武司・増井武彦・安森盟文・出嶋利明・久米加寿徳・北川雄士・貞廣邦夫・濱口正幹, 2009. 綾川町粉所東庄坂「里山」で採集した昆虫類. へりぐろ, (30): 15-29.
 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 2018. 環境省レッドリスト 2018 の公表について. (2019 年 3 月 6 日参照) <https://www.env.go.jp/press/105504.html>
 内田大貴・渡部晃平, 2019. 長野県におけるニセコウベツブゲンゴロウの記録. さやばねニューシリーズ, (34): 印刷中.
 Watanabe, K. & Y. Kamite, 2018. A new species of the genus *Laccophilus* (Coleoptera, Dytiscidae) from Japan. *Elytra*, Tokyo, New Series, 8: 417-427.
 渡部晃平・保科英人, 2019. 福井県におけるニセコウベツブゲンゴロウの初記録. さやばねニューシリーズ, (34): 印刷中.

(注) 引用文献中で「印刷中」と記した 2 文献については、本号別頁に掲載されているので、それらを参照されたい。

- (渡部晃平 920-2113 白山市八幡町戊 3 番地
 石川県ふれあい昆虫館)
 (藤本博文 760-0005 高松市宮脇町 1-17-4)
 (出嶋利明 769-0101 高松市国分寺町新居 2300-7)
 (北川雄士 760-0074 高松市桜町 2 丁目 4-26)

【短報】石川県におけるナカネダルマガムシの初記録

ナカネダルマガムシ *Ochthebius nakanei* Matsui (以下ナカネと記す) は、熊本県菊池渓谷を模式産地として記載されたセスジダルマガムシ属 *Ochthebius* の種である (Matsui, 1986). 石川県においては、渡部 (2010) が本種を報告していたが、ハセガワダルマガムシ *O. hasegawai* Nakane et Matsui (以下ハセガワと記す) の誤同定であることが判明していた (渡部, 2012). この度、筆者のコレクションを再確認したところ、渡部 (2015) がハセガワとして報告した 6 個体のうち 1 個体がナカネであることが判明した。筆者の確認不足をお詫びするとともに石川県における正式な初記録として報告する。

1ex., 石川県白山市桑島 大嵐谷, 15.VI. 2015, 筆者採集 (図 1)。

採集地は手取湖に注ぐ支流で、その上流側の林に囲まれた薄暗い細流が日当たりの良い支流へ注ぎ、合流したところの水面上に露出した大きな岩の水際部から採集した。吉富・林 (2019) はナカネ, ハセガワ, ホンシュウセスジダルマガムシ *O. japonicus* Jäch 3 種の生息環境について定量的な調



図1. 石川県産ナカネダルマガムシ.

査結果から考察しており、ナカネは“川幅の狭い山地の源流部に生息”すると推測している。本種の確認地点は、吉富・林 (2019) が推測したナカネの生息環境と類似する環境が見られた細流の下流部に位置していることから、上流側の細流内には本種の主要生息地が存在する可能性がある。

引用文献

- Matsui, E., 1986. Notes on some new Hydrophiloidea from Japan (Coleoptera). Papers on entomology presented to Prof. Takehiko Nakane in commemoration of his retirement, Special Bulletin of the Japanese Society of Coleopterology, 2: 81-90.
- 渡部晃平, 2010. 石川県未記録の水生甲虫7種の採集記録. 甲虫ニュース, (171): 9-10.
- 渡部晃平, 2012. 【訂正】「石川県未記録の水生甲虫7種の採集記録」の訂正. さやばねニューシリーズ, (7): 17.
- 渡部晃平, 2015. 石川県で採集した水生昆虫の記録 (2015). とっくりばち, (83): 35-40.
- 吉富博之・林 成多, 2019. 鳥根県の河川に生息するセスジダルマガムシ属・ホシザキグリーン財団研究報告, (22): 77-83.

(渡部晃平 920-2113 白山市八幡町戌3番地
石川県ふれあい昆虫館)

論文紹介

【所蔵文献紹介】つねきばち

つねきばちは、日本蜂類同好会が出版している雑誌で、当然のことながらハチ目に関する論文が掲載されている。同誌に以下の甲虫類関係の報告が掲載されていたので紹介する。

本メモは、2019年愛媛大学ミュージアムに寄贈された故・河上友三氏の標本と蔵書の一部に本誌が含まれており作成することができた。蔵書の寄贈に際しお世話になった河上友三氏の遺族と高知昆虫同好会の皆さまにお礼申し上げる。



- 田塾 正・黒川秀吉・室田忠男・野坂千津子, 2004. 2003年に長崎県対馬で採集した甲虫類. つねきばち, (2): 75-80.
- 下野谷豊一, 2004. シャープゲンゴロウモドキ (*Dytiscus sharpi* Wehncke, 1875) の採集記録. つねきばち, (2): 18.
- 大平仁夫・田塾正, 2004. 対馬で採集されたコメツキムシについての補足説明. つねきばち, (3): 63-66.
- 斎藤 剛・杉浦直人・初宿成彦, 2005. 日本未記録のオオハナノミ科甲虫 *Rhipiphorus* sp. の熊本県からの発見. つねきばち, (5): 68-70. [日本未記録属・種 *Rhipiphorus* sp. が阿蘇地方で8月に得られている.]
- 室田忠男, 2007. トラマルハナバチを誘うホトトギス属とハナバチヤドリキスイ. つねきばち, (11): 39-40. [写真とともに観察結果が示されている.]
- 杉浦直人・弓山めぐみ, 2010. エゾトラマルハナバチに便乗するハナバチヤドリキスイ (鞘翅目: キスイムシ科). つねきばち, (18): 35-37.
- 礼文島における観察記録.
- 高橋秀男・森川正昭, 2012. ムモンオオハナノミの産卵場所. つねきばち, (22): 54-55.

(吉富博之 愛媛大学ミュージアム)